

デザイン研究領域・造形教育研究領域 小論文試験  
2020年度 東京造形大学 大学院修士課程入学試験A日程

問題

次の文章を読み、条件に従って以下の設問に答えなさい。

文化相互間の、あるいは文化内部の多元性は、こんにち日常経験に属している。たとえ同時に——とりわけ新たなテクノロジーの時代のなかで——多元性が巨大な画一化のプロセスによって脅かされているとしても。そのような場合には、批判的に介入することが重要になる。テクノロジーによって単一化された世界文明とは別の、もうひとつの可能性としてわたしが認めるのは、もちろん地域的・民族的アイデンティティの強調だけではなく、すくなくとも同じ程度に、既存のアイデンティティを横切っていく雑種のないし——わたしとしてはこう呼びたいが——横断的な、新しいアイデンティティの産出である。

(中略)

国際的・社会的なレベルにおいて、あるいは個人内部のレベルにおいて、こんにちの造形活動と将来のデザインはまさにこのような徹底した多元性にかかわっていかねばならない。こうした多様性のかかえる諸困難を嘆くだけではなく、そのチャンスをつかみとることが重要である。

出典：W. ヴェルシュ 著, 小林信之 訳『感性の思考 美的リアリティの変容』, 勁草書房, 1998

ASTHETISCHES DENKEN by Wolfgang Welsch Copyright (C) 1990 Philipp Reclam jun. GmbH  
Permission from Philipp Reclam jun. Verlag GmbH arranged through The English Agency (Japan) Ltd.

設問

- ここに述べられている「こんにちの造形活動と将来のデザインにとって必要である多元性」について、各自の修士課程の研究テーマに関連づけて、論述しなさい。
- 論じた内容を集約した20字以内の題をつけて所定の欄に記入しなさい。

条件

- 解答用紙は、左上から横書きで使用すること。
- 解答文字数は800字以上1200字以内とする。

配付物

問題用紙	1枚
解答用紙	1枚
下書き用原稿用紙	2枚

使用を許可する用具

鉛筆又はシャープペンシル（硬度がHBより柔らかいもの）、プラスチック消しゴム、鉛筆削り（カッターナイフ、紙ヤスリを含む）

※電動消しゴムは使用不可